

平成29年 3月 8日

平成29年度 自動走行実証推進事業への応募申請書

	市町村名	刈谷市
連絡先	部署名	都市政策部都市交通課
	担当者役職・氏名	技師 久米 正宏
	電話番号	0566-95-0004
	FAX番号	0566-23-9331
	メールアドレス	tokou@city.kariya.lg.jp

○ 本事業への応募理由

本事業への応募理由、狙い等について、自動走行システムへの期待やそれを活用することにより解決すべき行政課題を含めて記載してください。併せて、実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等も記載してください（今年度実施した地域におかれては、その点も踏まえて記載してください）。

テーマ：技術でにぎわいをつくる～刈谷ハイウェイオアシスを核とした周辺観光資源を活用した自動走行車による散策～

(1) 実証地域（ルート）において、自動走行システムを活用することにより、解決すべき行政課題（高齢者対策、交通不便地対策、観光振興対策等）が存在すること。
刈谷市北部の丘陵地に、公園と高速道路のパーキングエリアをお互いに行き来できる施設として刈谷ハイウェイオアシス（岩ヶ池公園）が平成16年に開園しています。その後、平成27年度には、年間999万人が訪れ、西三河地域の代表的な観光スポットに成長しています。

その北側には、国の天然記念物に指定されたカキツバタ群落で有名な「小堤西池」、桜の咲き誇るお花見スポットであり、温水プール、テニスコート、ロッジ、デイキャンプ場などスポーツ・レジャー施設を備えた緑豊かな総合公園「洲原公園」などがあり、素晴らしい“自然環境”が守られています。

しかし、刈谷ハイウェイオアシスの来場者数が年々着実に伸びている一方で、地理的な

距離のある、小堤西池や洲原公園等の来場者数は横ばい又は減少傾向で、刈谷ハイウェイオアシスが地域に与える影響は施設内にとどまっております。そのため、地域全体の活性化に繋がる、“ヒト”の『往来のしやすさ』が課題となっています。

(2) 実証実験の成果を活用し、当該行政課題を解決するための自らの施策展開の方向性等が明確なこと（市町村のまちづくり計画等への位置付けや、市町村や地域の交通事業者等との関係者が連携し施策を具体化する体制の構築が見込まれることなど）。

北部地域は、自然、風景、公園などの自然環境と歴史や文化を感じる建物などの資源が豊富にある地域です。また、刈谷ハイウェイオアシスは北部地域の『賑わう』玄関口として現在機能しています。そうしたことを踏まえ、刈谷ハイウェイオアシスを拠点施設に、その周辺の池、公園、文化施設、歴史施設などの資源を有効に活用し、市民や来訪者の『交流』や『憩い』、来訪者への情報発信を行い、地域の更なる活性化を図るため『刈谷レストラーレ構想』を策定しています。

その中で、刈谷ハイウェイオアシス、「洲原公園」、「小堤西池」は、市民や来訪者に賑わい、憩い、癒しのスポットとして、相互が有機的に機能する必要性があり、それを結ぶ散策路や道路等の整備を進めています。

しかし、今後、高齢化が更に進展することから、“クルマ”だけではなく、“ヒト”が安心して安全に、前述の施設を回遊・移動できる手段として、自動走行車を導入することは、“ヒト”の活発な移動を支え、地域内の往来がしやすくなり、刈谷ハイウェイオアシスの拠点性の強化、周辺の公園、文化、歴史施設の一体的な利用が推進でき、地域の活性化に繋がります。

刈谷市は、“ものづくり”の拠点都市として次代を担う先端技術、世界レベルでの産業技術や研究開発を支援することで、工業都市として活力あふれる都市づくりを進めています。そのことから、自動走行システムは次世代自動車に必要な不可欠な技術と本市は考えており、今後の自動運転車の実用化に向けた実証実験に積極的に関わりたいと考えています。

(スペースは適宜広げて記載してください)

○ 実証実験実施場所、ルートの詳細

以下の点を記載及び地図に明示してください。路線内にある信号交差点、起点・終点場所、主要な施設（駅、病院、公共施設等）を示してください。

1 ルート（起点→終点）

起点：刈谷市東境町 刈谷ハイウェイオアシス → 終点：刈谷市井ヶ谷町 洲原公園

2 ルート（地図）



3 地理条件（既存のバスルートの有無、運行本数や地域の状況等を記入）

- ・ 灌漑用ため池とその周辺に畑地が広がる緑豊かな丘陵地。
- ・ 洲原池は周囲を公園として整備され、湖畔に愛知教育大学が隣接している。
- ・ コースは刈谷市と豊田市の市境付近に位置し、コース中間部は豊田市域で住宅街を形成している。

4 道路条件（募集要項も参照のこと）

項目名	内容
路線距離	片道約2.3km
車線数	片側1車線（中央分離帯なし）白線一部劣化、洲原池周辺は1車線道路
道路構造	歩車分離（片側歩道でガードレールあり）、勾配あり
道路種別	
トンネル、踏切	ともに無し
交通量	交通量は少ない
交差点	「東境町吉野」、「西岡町星ヶ丘」、「井ヶ谷町丸岡」
起点・終点	起点：岩ヶ池公園第1駐車場内 終点：洲原公園駐車場 駐停車場所、モニター調査実施場所の確保可能
その他特記事項	

5 写真（次のものを貼り付けてください。Google ストリートビューなどでも可。容量はワードファイル全体で5MB以下としてください。）

(1) 道路の様子（主要地点数カ所）

写真 道路の様子（市道 1-1018 号線）



写真 道路の様子（東境町吉野交差点）



写真 道路の様子（豊田市道）



写真 道路の様子（西岡町星ヶ丘交差点）



写真 道路の様子（市道 1-995 号線）



写真 道路の様子（井ヶ谷町丸岡交差点）



写真 道路の様子（市道 1-110 号線）



写真 道路の様子（市道 02-2 号線）



(2)、(3) 起点、終点場所 (駅、公共施設等)、車両待機場所
起点

写真 実験車両待機場所 兼 発着場 (岩ヶ池公園第1駐車場)



終点 : 刈谷ハイウェイオアシスバス停ロータリー

写真 実験車両待機場所 兼 発着場 (洲原公園駐車場)



6 高精度3Dマップの有無

有（平成28年度の実証実験で作成）

7 貴自治体における自動走行に関連した独自の取組（実績、平成29年度の予定・予算措置状況等）

（1）本市の取組予定と平成28年度の実績について

平成28年度の自動走行車の実証実験では、本市も全面的に協力させて頂いております。県の自動運転実証実験の実施に合わせ、隣接小学校に通学し次世代を担う小学生に対して、自動運転技術の進捗や交通安全が向上することを実感して頂きました。また刈谷ハイウェイオアシスではオープンスペースを利用しPRイベント等の開催などにつきまして、関係者等との調整、予算措置（補正予算を含め）を講じております。

なお、実証ルート起点とした刈谷ハイウェイオアシス株式会社より、平成28年度の自動走行実証実験や試乗会では全面的な協力を得ております。また、刈谷ハイウェイオアシス会社より、機会があれば是非「刈谷ハイウェイオアシスで実証実験を行ってください」との声も頂いております。

 **毎日新聞**

自動運転車

市民試乗「ここまで進んでいるとは」 刈谷で実験 / 愛知

毎日新聞 2016年12月1日 地方版



乗用車の自動運転実験と市民の試乗会が、刈谷市東境町の刈谷ハイウェイオアシスで行われた。県が今年度中に15回実施する実験の8回目で、市民に自動運転の実態や技術に触れてもらう狙い。

実験では、測量技術開発会社のアイサンテクノロジー（名古屋市中区）が開発した自動運転システムを車に搭載。高精度3Dマップやレーザーレーダー、カメラなどで沿道の車両や人間、障害物を感知し、信号や標識を識別しながら、2・3キロの公道を走った。万一に備えて運転席に1人座ったが、全く操作せずに済んだ。

市民の試乗会では、森岡仙太副知事や竹中良則・刈谷市長、親子連れなど28人が参加した。1回2人ずつ乗り、敷地内の約1キロを自動運転で走行した。

試乗した親子は「ここまで進んでいるとは思わなかった。市販されたら、ぜひ乗りたい」と話した。【安間教雄】

(2) 平成29年度の愛知県自動走行実証実験とのコラボレーション企画について

自動走行実証実験のルート沿線で、刈谷市内の企業の協力を得て、愛知県の自動走行と同時以下に以下の先端技術を来場者に提供する。

●民間企業と大学とのコラボ（調整済、時期は夏以降、面白い技術は秋以降）

- ・自動車安全最新先端技術等の試乗等により、技術の啓蒙を図る
- ・事故の多い交差点における交通安全確保に向けて、ITS 技術を活用した実証実験の実施
- ・研究機関による自動走行実証実験の実施 などを予定。

8 その他参考資料（ある場合は添付）

●本市における自動車の先端技術への平成28年度までの取組状況

(1) 自動走行関係

- ・名古屋大学へ実験場所の提供

実施者；名古屋大学

実施日；平成29年1月25日から2月1日（今後も継続実施の予定）

実施場所；刈谷市ミササガパーク 調整池

(2) 交通安全関係

①ゾーン30内の交通安全対策

- ・車速センサーを活用した電光表示板を活用した制限速度30km/hの遵守率の増加

実施者；愛知県ITS推進協議会、刈谷市、豊田都市交通研究所

実施場所；刈谷市東刈谷町地内

実施経過；ア) H26.7.12～ H27.9.6 愛知県ITS推進協議会等による実証実験

イ) H27.7月～ 道路に狭さくを設置 刈谷市継続利用

ウ) H28.1～2月 時間経過に伴う効果の持続性調査（刈谷市）

②交差点における交通安全の確保

- ・ 自転車、自動車の検知機を交差点に配置し、「止まれ」の標識や「停止線」に発光体を取り付け、センサーの反応により、自動車や自転車の一時停止の遵守率を向上させ、交通安全を確保。

実施者；研究会（デンソー、刈谷市、豊田都市交通研究所他）

実施場所；刈谷市東刈谷町、小垣江町

実施経過；ア) H28. 2 ～ H28. 7 月 実証実験

イ) H28. 7 月 継続利用

ウ) H28. 12 月 効果検証